

国立12大学 新テストに関するアンケートの結果まとめ（最終版）

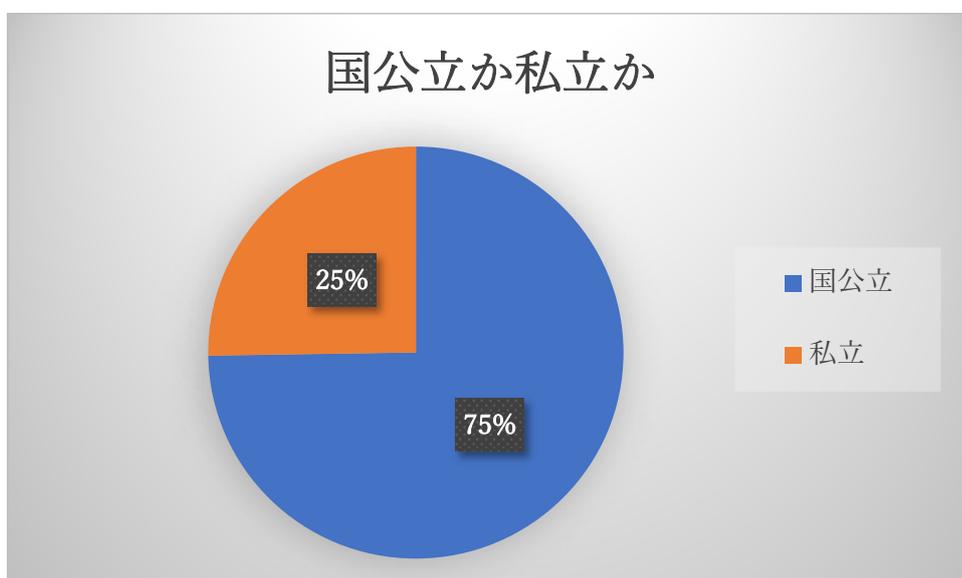
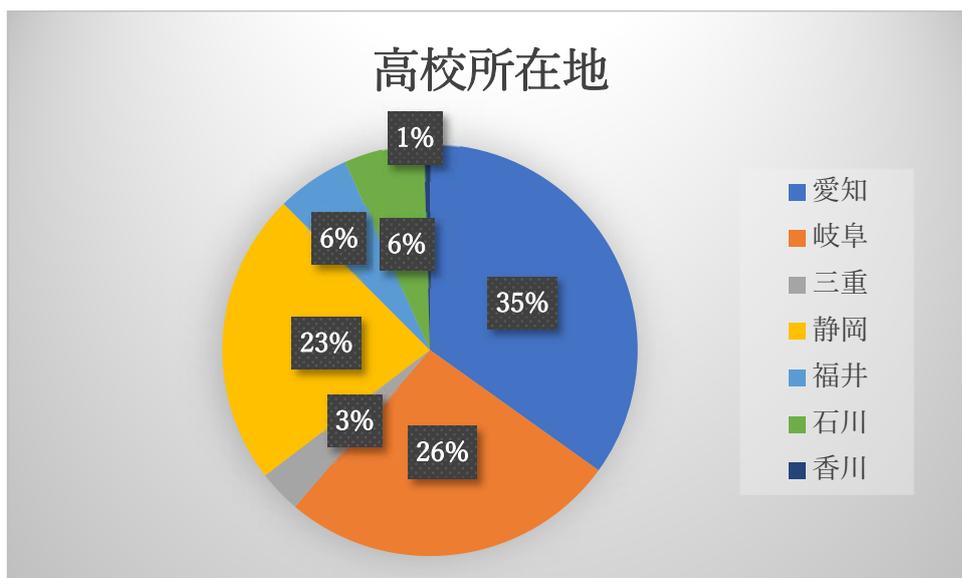
9月6日6:00までの回答結果に基づくまとめです。（計209校）

【注意事項】中間まとめと、数字が異なっているところがあります。東大の発表などを受けて、アンケートに答え直した高校もありますので、入力日時の遅い方のみを残して集計しました。

【質問1・2・3】 高校所在地および国公立・私立の割合

高校所在地 愛知73, 岐阜55, 静岡48, 石川13, 福井12, 三重7, 香川1 計209校

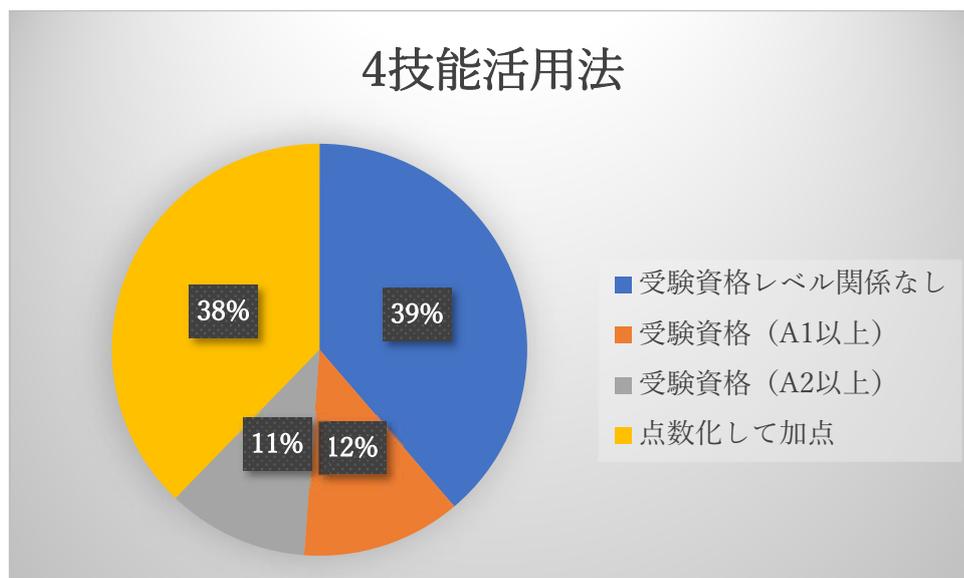
（同じ高校で、普通科と理数科で別々に回答をしているものはなかった）



【質問5】4技能試験の活用法で好ましいものを選んでください

- 1 受験資格（すべてあり） 2 受験資格（A1以上） 3 受験資格（A2以上） 4 点数化して加点

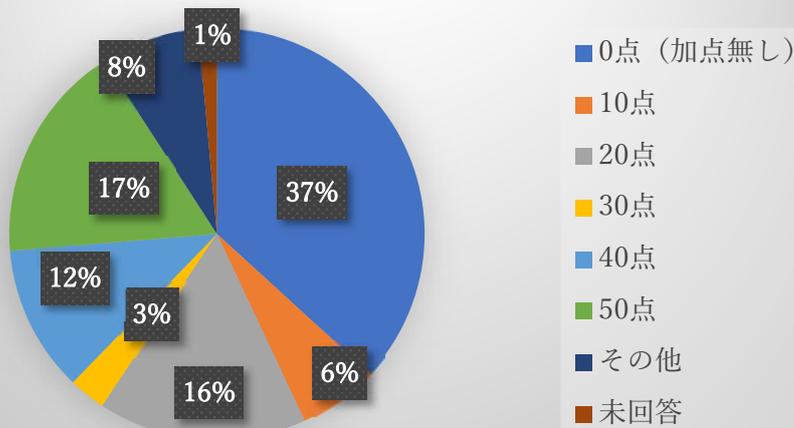
このアンケートでは、受験資格と出願資格は用語としては同一のものとしている。



結果としては、東大が発表した「レベル関係無しで受験資格とする」と「点数化して加点」が81校と80校でほぼ同数になっている。受験資格として、レベルを指定する場合にはA1以上とA2以上が共に25校前後とそれなりの数になっている。ただし、CEFRのA1レベルが最低レベルと考えている高校も多いので、事実上、A1以上は、「受験資格レベル関係無し」と同様に考えていると想定される。(実際に、高校の先生方と話していると、それ以下のレベルがあり得ることを考えていなかったところもかなりあった。) そうみると、51% (全体の半分) が受験資格かを望んでいるということが確認される。A2以上を受験資格としている高校は、国大協がA1を足切り対象とする例も示していたため、それを受けた結果だと考えられる。点数化して加点も国大協が示した例の一つであるが、それなりに支持が多い点が特色である。しかし、点数化して加点を選んだ高校でも、自由記述を見ていると、「せっかく4技能を取り入れるのだから、ある程度差がつくようにしてほしい」という肯定的な意見よりも、「一つの方策としてやむを得ない」「全員に同じ点数を加点」などの否定的な意見の方が多かった。これについては、あとで分析する。

【質問6・7】 点数化について、旧センター試験英語の200点に加点する場合の4技能の加点は何点が好ましいかを選んでください。

4技能点数化の点数



40点と50点は解釈が難しいが、国大協の20%を加点という表現をどう解釈したかという違いと、リスニングと合わせてと言う解釈が混在している。センター試験の英語(マーク式)を200点に換算したものをベースにすると20%だと40点、リスニングを合わせた250点をベースとすると50点になる。また、加点した全得点のうち20%を占めるようにするという考え方(マーク200+4技能50で250点満点、なので50点だと全体の20%にあたる)、の3種が混在しているようである。(実際の、聞き取り調査でもその3種の解釈が存在していた。) よって、40点と50点は、事実上、国大協の提示した20%の加点という方式に従ったもので、区別しないで考えることとする。すると、全体の29%(60校)と、それなりの数になる。「0点(加点無し)」と回答した高校はすべて、質問5の「受験資格(レベル関係なし)」を回答した高校であった。逆に、質問5で「受験資格(レベル関係なし)」と回答した高校81校のうち10点が3校、20点が11校、40点または50点が13校と結構わかれていた。低い点数(20点以下)のところは、使うにしてもなるべく影響を少なくして欲しいという要求であると考えられる。40点または50点のところは、基本的に国大協の提示したラインを書いた(基本的には、全員受験可能な形にして欲しいが、もしも点数化するというのであれば、本意かどうかは別として国大協のラインにあわせる)のであろう。

単純に整理すると、0点から20点の間で、なるべく影響を少なくして欲しいという回答が約6割(59%)、国大協の示す20%のラインに合わせる(40点または50点)が約3割(29%)と、2:1になっているという状況である。どちらを重視するか、各大学での判断が難しいところである。20%のラインに合わせるところも、自由記述を見ると、3校ではあるが、せっかく4技能を採用するのだから、せめてそれくらいの点数で評価して欲しいという意見もあった。「その他」の回答に関しては、学部によって変えるなど自由裁量に任せるという意見が多かったが、高い点数を求める意見は特になかった。

【質問8】 加点をする場合、各レベルの配点について、どのような配点が好ましいかをご記入ください。例えば、どのレベルでも同じ点を加点する、一つレベルが上がるごとに一定の点数を積み増して加点する、A2~B2までとC1、C2では異なる点数を加点する、等の方法が考えられます。

自由記述のため、実に様々な意見が出ていたが、大まかに区分して整理した。(雑多な感想に近い、回答は、この中には含めていない。)

- 1 1つレベルが上がるごとに一定の点数を加算していく 79校
- 2 もう少し粗い区分でレベル分けして、点数を加算していく 12校
- 3 一定の加点(全員に同じ加点をする) 12校
- 4 加点には反対 9校
- 5 未回答 56校

加点する場合という条件に反対している高校が多いため、回答数が減ってしまったが・・・一定の加点(同じ点数の加点)や0点の加点というのは質問6の「加点に反対」と一致している。中間まとめの時よりも一定の加点の数が減っているが、今回は0点の加点を4の「加点には反対」の方にまとめて入れたためである。結果としては、単純にレベルが上がるごとに一定の点数を加算して欲しいと言う高校が40%になっている。質問6で40点や50点の加点と回答している高校の多くは1の「一定の点数の加点」が多かった。加点の区分の細かさは別として、なるべく小さな点数差にして影響を少なくして欲しいという回答が8校からあった。このアンケート結果の解釈も難しいところであるが、質問5で「受験資格(レベルに関係無し)(A1以上)」の高校も、もしも加点するのであれば・・・ということに回答しているところ(28校)も多いので、なるべくシンプルな方法を答えただけだという可能性も大きい。その他の意見として、「統一試験として行うべき」だというもので、実質的には新テストの中でセンターが4技能を確認できる試験を行えば良いという感じの意見が5校から出されていた。

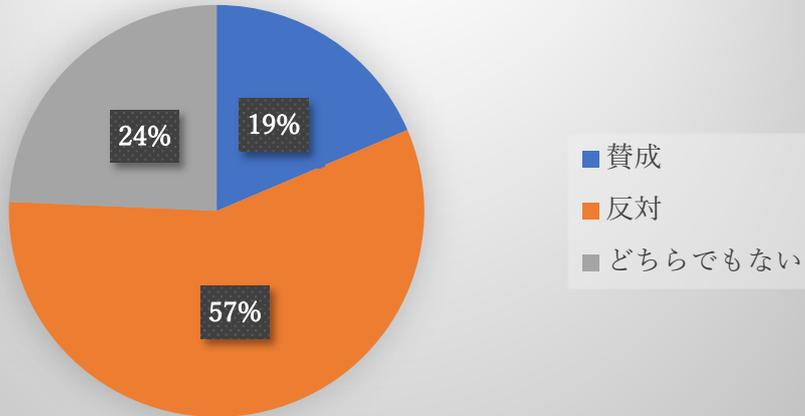
【質問9】 「4技能試験の採用について、他にご意見がありましたら、自由にご記入ください。」

そもそもCEFR(民間試験と捉えている高校も沢山ある)の段階評価・・・が信用できるのかわからない。2つの側面があり・・・CEFRの段階評価そのものに意味が無いという意見(英語の専門家の間では、CEFRは英語の能力を測る基準ではないという意見があるので、それに基づいたものだと思う)と、民間試験で様々な試験が存在しており、その間でのレベルの統一が出来ていない(東大が指摘している点と同じ内容と思われる)のに、それを入試に使うて良いのか・・・という意見が多かった。1の公平性に何らかの問題があるという回答が65校であったが、その中で金銭的問題、地域間格差による試験会場・試験回数の制限が問題であるとしたものが21校あった。そもそも、英語だけ、何故重視するのかかわからないという回答が4校あった。あと、質問8でも述べたように、統一試験を行うべきと言う意見も見られた。

- 1 公平性に疑問がある 65校
- 2 金銭的問題および回数・試験会場の問題 21校
- 2 英語だけ何故評価基準とするのか疑問 4校

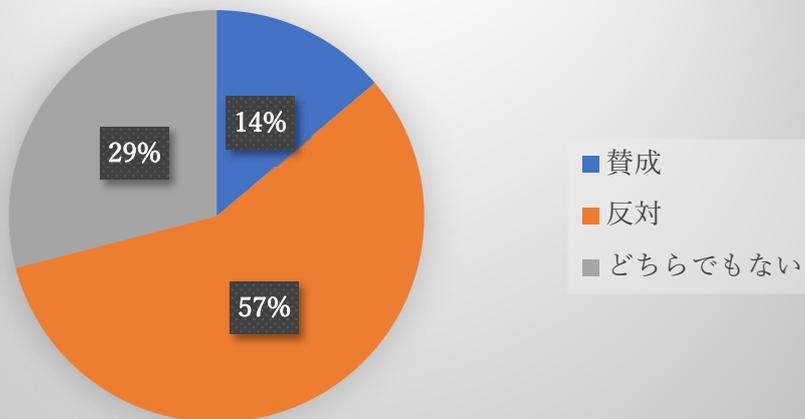
【質問10】 「調査書の点数化について、個別試験において評定平均を点数化して用いることの賛否をお答えください。」

評価平均の点数化



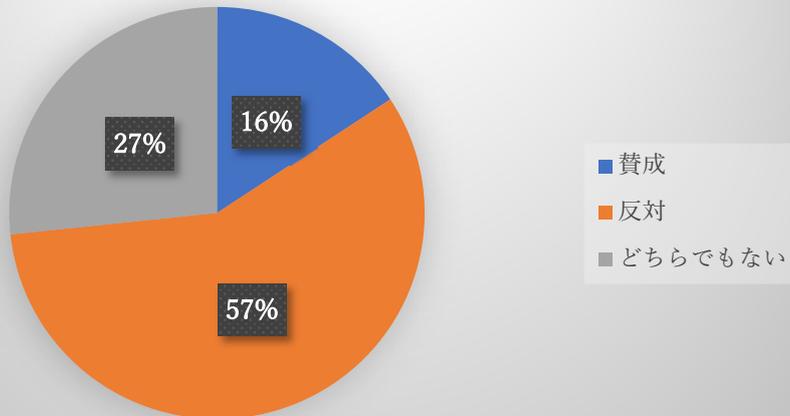
【質問 11】 「調査書の点数化について、個別試験において評価（AA, A, B など）を点数化して用いるという考え方もあります。賛否をお答えください。」

AA, A, などの評価の点数化



【質問 12】 「学習の履歴（ポートフォリオ）を個別試験で点数化して用いることについて、好ましいものを選んでください。」

ポートフォリオの点数化



この3項目の回答から、基本的には点数化に反対だと言うことがわかる。反対している高校約120校(質問10:119校, 質問11:120校, 質問12:121校)のうち97校は、3つの項目すべてに反対としており、個別試験に調査書を点数化すること自体を否定していることが明確である。それに対して、賛成の方は、質問によっては「どちらでもない」としている高校もある。約6割が反対と言うことで、質問5で受験資格(レベルに関係なし)(A1以上)の約5割との間の相関を見てみたが、それほど強い相関は出ていなかった。英語4技能と調査書の考え方は、独立したもののなのであろう。それに対して、質問6の点数化で、20点以下の回答をした高校の大部分が、すべて反対の高校であった。基本的に、4技能の点数化はやるにしても影響が少ないようにして欲しいし、調査書の点数化も行うべきではないと考えている高校が6割弱あるということになる。この点には、十分に留意する必要があると思われる。

【質問13】「学習の履歴の利用について、推薦入試やAO入試では佐賀大学が示しているように、利用するという方向性も出されています。逆に、0または1以外の評価は不可能であるという意見も多くあります。何か、ご意見があれば、お願いいたします。」

0または1以外の評価、の意味がわからないというコメントもあったが、記述のあるなし(あれば1で、なければ0)だけの判定は可能であるが、「ある」という場合に、いくつかのケースでどちらの方が高い点数であり、何点くらいの差をつけることにより、優劣を決めることは不可能ではないかという意味で用いている。公平性について心配する回答が33校からあった。推薦入試やAO入試ならとにかく、個別試験での利用は無理だし、点数化も非常にこんなである、またはそもそも意味が無いという回答が75校からあった。(公平性は学校間格差と明記してあるものも多く見られたが、単純に公平性としてしか書いていないものも同一に扱った。質問14の結果も参照のこと)また、その理由の中に、高校側の準備のための負担の大きさを訴えるものが、結構多かった。一般入試ではなく、推薦・AO入試での利用に関しては、すでに行っているなど、面接との組み合わせがあれば一般入試でも使っていける(場合によると使って欲しい)という回答が28校からあった。人数が少ないし、アドミッション・ポリシーが明確であるものが多いので、高校側としても対応しやすい、という側面もあるかもしれないが、面接を行って受験生全員を比較することになるので、学校間格差などの不公平性は解消される、という見方だと考えられる。一方

で、学習の振り返りや学習の成果を行うことは重要だという回答も 21 校からあり、教育の中に取り入れていくことへは肯定的に捉えている高校もあることが確認された。ただし、今回のアンケートの入試にどう使うかという観点より、「高校の教育を変えていきたい」という観点からの回答が多かった。また、入試にどう使うかに関しては、使うのであれば大学側がどのようなものを要求するのかを明確にして欲しいという回答も少なからずあった。

【質問 14】「調査書の活用方法について、このようなものが欲しいというご希望があれば、自由にご記入ください。」

基本的には質問 13 での回答と重複するものが多かった。基本的には、学校間格差などから出てくる公平性の担保が不可能ではないか、という意見が多く見られた。(こちらの質問では学校間格差と明記してある高校が質問 13 よりも増えていた。質問 13 で単純に公平性と言っている場合も 14 では学校間格差と書いている高校が結構見られた。) それ以外で 10 校に満たない程度ではあったが、大学側で基準の透明性を担保することへの要求、大学側で基準を統一して欲しい、大学側の基準がはっきりしないといった指摘もあった。一方、なるべく簡素化をして欲しいなどの高校側の負担軽減を訴えた回答が 11 校からあった。質問 13, 14 を通して気になる部分は、調査書に学校間格差以外の不公平性が入りうるということを示す回答がある程度見られたことである。単純に定量化するようなシステムが構築されない限り、調査書を書く教員の資質? に依存してしまう部分があるということだろうか。

【質問 15】「2024 年度入試からは、英語の試験そのものが共通テストでは廃止になるという話もあります。このことに関する、ご意見もいただければと思います。」

単純に共通試験の中に残すべき(残して欲しい)という意見が 57 校であった。(ただし、少し広めにカウントしている。また、この中には現行のセンター試験の英語の内容を見直すというものも含まれている。)残すかどうかは明記していないが、外部試験に委託と言うことそのものに反対(本当に公平なのか、金銭的な負担が大きい、環境整備が間に合うのか、が理由)が 38 校あった。共通試験を残すべきと言う 57 校と重複している高校も含んでいる。これに対して、外部テストでもかまわないという回答が 24 校であったが、あくまで公平性が担保できて、金銭的な負担増が解決するのであればという付帯条件がついているものが、その中の半数以上であった。基本的に、外部試験というか業者に委託、と言う点に対して拒否感を強く示している高校がそれなりにあるということがよく確認された。

【質問 16】「こういったことも考えて欲しいというご意見がありましたら、自由にお書きください。」

相変わらず整理は難しいほど、様々な意見が書かれています。とにかく、大学側の対応が遅いという意見(2 年前告知というが、高校の場合は 3 年前から対応する必要がある)、負担増にしかならない変更を何故行うのか、ポートフォリオの利用について各大学は利用法を明示するべきである。の 3 点が、大学側への強いメッセージとして書かれていたと思います。また、そもそも、どのような人材を育成していくのかという教育の基本姿勢について、まともに検討していないではないか・・・という意見も多々ありました。国立 12 大学としての公式な回答は難しいと思いますので、あくまで名古屋工業大学の高木個人として感想を書かせていただくと、誠にその通りだと思います。

【まとめとコメント】

このアンケートの結果は国立 12 大学の HP に公開させていただきます。全国の各大学の指針決定の一助となれば幸いです。また、このようなアンケートがあれば高校にとって有益であるというヒントをいただければ、新たなアンケートサイトを立ち上げることも出来ます。アンケートに協力していただいた高校の方々へ、本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

平成 30 年 9 月 12 日

国立 12 大学 代表幹事 名古屋工業大学 高木 繁